

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年1月29日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600144
法人名	社会福祉法人南之郷
事業所名	認知症高齢者グループホーム南之郷
所在地	鹿児島県曾於市末吉町南之郷8130番地1 (電話) 0986-78-1107
自己評価作成日	平成30年12月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年1月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人南之郷は平成26年4月7日に開所した施設です。農業法人と一体となり、利用者様が活躍できる場として農業の軽作業を行っています。慣れた手つきで、シソ・ネギ・ニラなどを選定されています。また、施設のミニ農園において、さつま芋の植え付け、収穫を利用者様と一緒にしています。閉校した中学校の建物を改築し、地域の方との交流の場にもなっています。建物の南側には広いグラウンドがあり、イチョウや桜などの木々が季節ごとに色どりを変え、利用者様の心を癒しています。また、3月末に完成した東屋にて、お茶を飲んだり、歌や楽器演奏など行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 地域の消防分団や公民館長などの協力体制があり、避難訓練時には防災放送を地域に流し協力を呼び掛けている。隣接の体育館が地域の避難所に指定される予定のため、法人も被災者の受入れを計画している。法人の敷地に広大なグラウンドがあり、地域行事に活用されているが、ドクターヘリのヘリポートにもなっている。グラウンドには、階段を使用しないと行き来ができないため、早急にスロープを増設する予定である。
  - 昨年、グラウンドを見下ろす位置に、「東屋」を造り、日常の散歩の休憩やお茶タイム、グラウンドゴルフなど地域行事の見学などに活用している。また、特養にウッドデッキを増設し、食堂から直接屋外に出られるようになり、天候の良い日は、日光浴をしたり、行事見学をしたりして気分転換に役立っている。家庭菜園もあり、ブロッコリーやサツマ芋など調理に活かしている。また、グラウンド奥に、巨大なイチョウの木があり、季節の移り変わりを肌で感じながら銀杏取りをしたり、キノコ栽培もしているため利用者が収穫に参加することを楽しみにしている。地元の出身の利用者ばかりなので、農家の出身も多く、野菜の下ごしらえなども手際よく作業される。
  - 食事は、塩分控えめであるが味付けはしっかりとしており、利用者全員が食欲もあり見守りにて自力摂取されている。時には、東屋でランチをしたり、運動会の時は、家族と一緒に昼食を楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人南之郷の理念を掲示し、毎日朝礼で唱和する事により、職員全員が共有し理念に基づくケアの実践につなげようとしている。	理念は、共有スペースに掲示され、重要事項説明書に記載して契約時に説明している。職員は、家族や馴染みの方との関係性の構築や本人をありのままに受容し落ち着いた居心地のよい住環境を整えるなど理念を意識した実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流の場として、月1回いきいきサロンを開催している。また、七夕には、毎年幼稚園児が来所し飾りつけを一緒にしている。	法人と一体となり、地域の小学校や幼稚園などと交流を積極的に実施していることから、学校行事を把握し、学校新聞を掲示、学校を解放したイベントの授業参観に参加したり、七夕祭りの交流会、グランドゴルフ見学、いきいきカフェへの参加など利用者の認知面に配慮して個別に参加を促している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	南之郷いきいきサロンを月1回開催している。毎月色々な内容を行い、地域の方が利用者様と交流できる場をつくっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催している。入所・職員状況・事故に関する事、行事内容の報告を行い、御家族様や地域の方、市の職員方の意見をサービス向上に活かしている。	会議は、特養と合同で開催されているが、家族の参加は多いとは言えない。管理者は、家族の参加がしやすいよう日程を検討しており、代表制ではなく全員に声かけし複数名の参加を検討している。また、今後は、情報の伝達についても工夫の必要性を感じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議以外でも運営や現場の状況について、相談や報告を行っている。	今年度は、市主催の「いきいきカフェ」への参加を実施した。市担当者とは、面談や電話などで情報交換したり、運営推進会議に参加していただくなどして相互に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、全体会議の中で勉強会を行っている。また、日々のケアの中で、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、事故の無いよう声掛け、見守りを行い、日中自由に出入りできるようにしている。	昨年から、入退所が複数名あり離設傾向の方はいない。昼間は、扉のセンサーの電源は切り、音はなるだけしないよう職員間の気配りや見守りを強化し安全に安心して暮らせるよう配慮している。身体拘束廃止委員会があり、毎月の定例会や研修会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修等で虐待について学ぶ機会を作り、職員全員で注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、今後勉強会を行い、必要時、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用できるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書について、御家族様・利用者様に説明を行い、同意を得て、署名捺印を頂き、契約が締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日常の様子を話し、意見や要望を聞いている。話をできる利用者様については、日常会話の中から要望等を聞いている。また、ホーム入り口に意見箱を設置し、とうかんでできるようになっている。	家族には、利用者の健康状態をより理解していただくために、通院介助に同席していただいたり、なるべく家族に協力をもらっている。家族向けアンケートを実施しているため、結果を分析しサービスの向上に繋げていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を開催し、職員の意見等を聞く機会を設けている。意見や提案をいつでも聞けるような雰囲気づくりに努めている。職員が自主的に活躍できる機会を設けている。	職員向けアンケート結果では、若い職員が、資格取得やスキルアップを図りたいと外部研修会への参加を希望している。法人も採用後の職員異動に際して職員の適性や本人の希望を検討し配置するようにしている。法人全体の親睦会や食事会などがあり、職員間の交流活動を促めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みはできる限り可能にし休みにリフレッシュできるよう配慮している。休憩場所等の設備も整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や自施設研修でそれぞれのスキルアップに取り組んでいる。今後他施設研修などを取り入れ、職員個々のスキルアップを目指していく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症ホームの会に参加し、他事業所との交流を行っている。今後も積極的に参加し交流、意見交換を行っていききたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご本人様との面談を行い、要望や不安など傾聴している。入居後は、他利用者様との関係等に配慮しながら、密に声掛けを行い、信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談時に、ご家族様からの相談・要望等に耳を傾け、よりよい関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様の状態を見ながら、ご家族様とも相談し、介護支援専門員・看護師・介護職も含めて話し合いを行い、必要なケア内容を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者様の生活歴を把握することで、寄り添い、その方らしさを見出し、共に暮らす者同士の関係が築けるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご利用者様の日々の様子を伝えることで、ご家族様とのコミュニケーションを図り、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者様が多く、ご利用者様同士が顔なじみだったり、ご家族様同士が知り合いだったり友人・知人の訪問も多い。ご家族様の協力により、外出などの支援をしている。	入居の利用者同士が、馴染みの関係であるため、家族や親戚とも顔馴染みである。時には、認知症の進行度により関係継続の支援を図りにくいこともあるが、利用者同士の関係性が悪化することがないように支援している。今年度は、写真を撮りコメントを書いて年賀状を出した。また、年忌や葬儀で外出、外泊されたり、お孫さんが成人式、結婚式の晴れ着を披露するなどの訪問があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格に配慮し、トラブルなく過ごせるよう、職員が間に入るなどの対応をしている。また、ご利用者様同士が楽しく会話できるような雰囲気づくりも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況に応じて、本人・家族からの相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望・意向は、普段の会話の中で聞き取り把握できるよう努めている。また、聞き取りの困難なご利用者様においては、ご家族様や近親者様などから情報を頂いている。ご本人様の表情や行動などから本人中心の支援を行っている。	利用者に直接現在の思いや意向を聞き取り言葉にできる方もおられるが、ほとんど言葉にはならず欲求程度に限られている方もあるため、表情や行動を観察したり、職員間で本人の思いを汲み取るよう情報交換して、本人が納得いくようケアし、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーからの基本情報や普段の会話の中から、これまでの暮らしぶりや生活環境等の情報を得ている。ご家族様から、これまでのサービス利用の経過や、不足する個人の情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、無理強いすることなくご自分のペースで生活できるよう、一人ひとりの現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様一人ひとりの課題やケアのあり方について、気づいた事があれば随時職員間で話し、ケアマネージャーに報告するなどしている。また、会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。	入居間もない方などは、目標期間を短期間で設定し、モニタリングし再アセスメントして、介護計画書を作成している。担当者会議には、家族に参加していただき一緒に計画を話し合い、同意をいただいているが、遠方の方も面会に来られた時に説明などしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や、ケアの実践・気づきなどを個別記録に記入し、ご利用者様の生活状況が見えるような記録を書くようにしている。それによって見えてくる課題などを、チームとして共有し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況や意向などが変化した時、職員との話し合いを持ち、ニーズに対応したサービスが柔軟に行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する同法人施設で行われる地域のボランティアの方々の慰問に参加したり、地域の小学生や幼稚園児との交流を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を重視し、入所前のかかりつけ医をそのまま利用されたり、入所後協力医へ変更も行っている。家族が病院受診に同行する時でも施設の職員が送迎するなどの支援をしている。	医療ニーズが高い方や認知面において内服薬調整が必要な方などもおられるため、特養の看護師や主治医と連携を図り、緊急時や重度化した場合において24時間オンコールにて対応が取れる体制があり、家族の信頼感につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での、ご利用者様の状態変化や気づきなどをすぐに看護師へ連絡・相談し適切な看護や受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、医療機関関係者と連絡を取りながら、状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合における指針を説明し、同意を得ている。終末期の支援については、ご家族様・医師・看護師・その他関係者間で十分な話し合いを持ち、ご家族様・ご本人様の思いを尊重し、職員が情報を共有し取り組んでいる。	「急変時や終末期における医療等に関する意思確認書」や 看取りの指針があり、入居の段階から看取りを視野に入れ支援するとともに、早い段階から主治医や関係機関、家族などと話し合い本人や家族の意向に沿った最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職・事故防止委員会を中心に勉強会を行っている。消防署によるAED講習や普通救命講習も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>6月風水害、9月消防署・警察立会いのもと、近隣協力隊・地元消防団にも協力をお願いし夜間避難訓練を実施。本年度3月不審者・防火訓練を予定している。</p>	<p>地元の消防分団や公民館長などの協力体制があり、避難訓練時には防災放送を地域に流し協力を呼び掛けている。隣接の体育館が地域の避難所に指定されることになり、法人としても避難者の受け入れに際し備蓄の検討をしているところである。職員は毎日、防災点検を実施し、月1回は周辺の安全確認をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に合わせた声掛けを行っている。内容や対応にも気を付けている。排泄や更衣時プライバシーに配慮している。	職員は、地元言葉であっても失礼な言葉使いや不適切な言動などがないように職員同士注意するようにしている。また、認知症であることに配慮し、本人が不快な思いをしないようケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用様が自己決定できるような場面をできるだけつくろうと努めている。日常会話の中でも、希望や思いを出せるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は職員の都合上日中に行っているが、無理強いしない様努めている。一人ひとりのペースを大切にするよう、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の洗面時、自分でできる方にはブラシを渡し髪をとかしてもらい、できない方は職員がとかしている。自己決定できる方には、自分で着る服を選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食後のテーブル拭きやお盆拭きなど、負担にならない程度のお手伝いをお願いしている。見守りや食事介助の必要なご利用者様があり、職員と一緒に食事をとるのが難しい状況にある。年1回厨房による嗜好調査を実施し、好みや味付けなどを聞いている。</p>	<p>自家製の米や野菜をふんだんに活用し、特養の厨房で調理されている。定期的に嗜好調査し、食事形態を工夫したり、行事にちなんだおやつを提供や菜園で収穫された野菜の活用をするなどして季節を感じていただけるよう配慮している。朝食や昼食には、乳製品を取り入れたりして腸内環境の改善も意識している。年の瀬は、そば打ちや餅つきを楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>当法人の管理栄養士が献立を作成し、バランスの取れた食事を提供している。水分量は、毎日確認を行い、水分摂取の少ない方には、少量で回数を増やしたりなど工夫し、なるべく多くの量を摂取できるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後歯磨きの声掛けを行っている。できる方はご自分で磨き磨き残しを介助している。できない方や拒否のある方は、無理強いしないよう努めている。食後お茶を飲むなどし、残食が口腔内に残らないようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを健康チェック表で確認し、誘導を行っている。日により、排泄パターンが違うが、職員はできるだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。</p>	<p>ポータブルトイレの活用は多いが、臭いなどなく居室は清潔感がある。職員は、本人の排泄のリズムを把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。また、排泄誘導の声かけなどはプライバシーに配慮し排泄の自立に向けて取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>加齢による腸内運動の低下を理解し、水分補給や適切な運動を通して、便秘を予防している。また、いきみができないご利用者様には、下剤調整して排便をコントロールしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回ご本人様の体調を見ながら入浴支援している。拒否のある方については、無理強いしていない。	ユニットバスであるが、移動経路にベストポジションバー（手すり）を設置し移動の安全性を意識するとともに、ヒートショックがないようカーテンで仕切り空調システムを活用し温度管理している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の部屋でゆっくりと過ごす事ができる。昼間の活動を増やすことで、夜の良眠を確保している。病状によって、夜間動きのあるご利用者様がおられるが、職員が適切にたいおうしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、ご利用者様一人ひとりの内服薬の効能を理解し、確実に飲んでもらえるよう工夫している。また、状態変化時にはすぐに看護師に報告し適切な対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味・楽しみなどを知り、日々の生活の中からそれぞれの役割、楽しみごとを見つけ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、園庭散歩や東屋にてお茶を飲んだり等、気分転換を図っている。また、一部の歩けるご利用者様を車で花見に連れて行くなどの外出支援をしている。ご家族様にも買い出しの機会を作って頂いている。	天候や体調などを見ながら、敷地内を散歩したり、東屋で休憩してお茶をしたり、地域の行事を見学している。春や秋などはドライブがてら花見見物に行くなど支援しているが、日常は、家族に協力をいただきながら外出を楽しまれる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在お金を所持している方はいない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>「家に電話したい」といわれるご利用者様には職員が電話をかけて、取り次いでいる。年賀状やはがきなど書ける方には書いていただくなどの支援を計画している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間が狭く、車椅子などで動くときなど、ご利用者様を動かしたりして、日頃から不便を感じていたが、7月改修し広くなった。清掃も毎食後行い、いつでも気持ちよい空間で過ごせるようにしている。</p>	<p>食堂は、居室を1部屋減らしたことで、広い空間にリフォームされている。食堂から外の景色も見通せるようになり窓からの採光があって環境が一変している。日常的にソファで過ごされる方もおられたり、気の合った同士席次を工夫するなど配慮している。職員は、認知面に配慮しなるべく不快な音がしないように努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間が、共用空間となっている。気の合った方同士で話が盛り上がることも多い。一人で過ごしたいときには居室で過ごされている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた物を持ち込み使用することで、自宅に近い環境で居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	<p>夜間のポータブルトイレ使用が多いため、センサーマットを活用している。転落防止用マットレスやサードレール保護テープ使用により事故防止している。居室は、清掃が行き届き臭いも全くなく清潔感がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共同スペースである居間兼食堂を広くした事で、安全に移動できるようになった。また、トイレや風呂場なども分かるように表示している。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない